

## 森林事務所等紹介

### 松江・横田森林事務所(島根森林管理署)

主任森林整備官 安田 裕二(やすだ ゆうじ)

松江・横田森林事務所は、島根県東部に位置する国有林約2600ha(3市町)、官行造林約1100ha(6市町)を管理経営しています。人工林率は約60%、天然林率は約39%となっており、間伐等の森林整備事業を実施している一方、天然林などの自然景観等を活かした登山道が整備されるなど、森林の持つ公益的機能の発揮に重要な役割を果たしています。



森林整備事業の様子



落ち葉であざやかに彩る登山道(船通山<sup>せんつうざん</sup>国有林)

森林事務所が所在する奥出雲町は、古事記や日本書紀に「スサノオノミコトが降臨した」と記され、出雲神話発祥の地となっており、国有林はこれらに関連した名称や舞台とされるなど、日々の業務で神話の世界を身近に感じることができます。

奥出雲町は、「たたら」と呼ばれる製鉄技術を極めた日本産業の礎の地でした。この「たたら製鉄」により鉄の生産と農工具刃物造が盛んに行われたことから、町内には包丁作りができる施設や、日本刀鍛錬の実演など、この地域特有の歴史を体験することができます。

また、たたら跡地を棚田として再生させて生まれた「仁多米」や、鉄の運搬、農耕などを担った和牛「奥出雲和牛」の産地となっています。

さらに、木炭をつくるために管理されてきた森林は「しいたけ」の原木供給林としても利用され、森林を伐採した跡で「そば」が栽培されるなど、たたら製鉄に由来して農業・林業・畜産業が自然と共生しながら生まれた、魅力満点の特産物にあふれています。



船通山<sup>せんつうざん</sup>と麓の田んぼ

ぜひこの機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

# シリーズ『国有林 最前線！』

## シカによる被害発生地域での取組について

～各種シカ防護柵の比較検証～

広島森林管理署

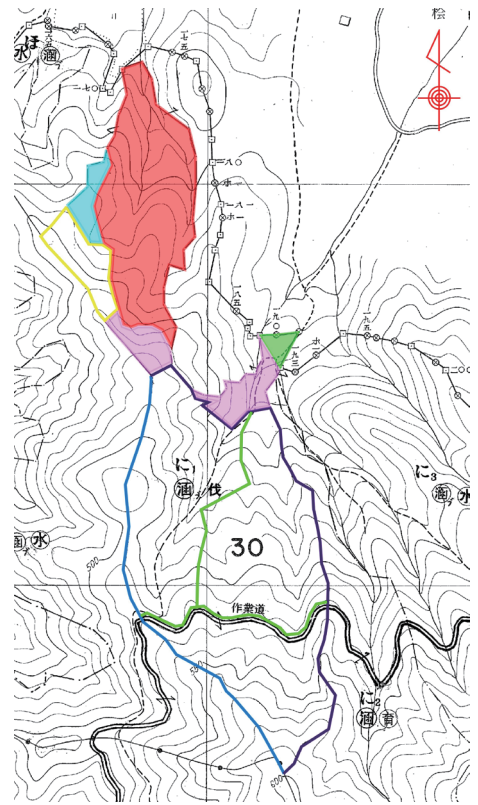
広島市安佐北区に位置する<sup>おしてやま</sup>押手山国有林には比較的まとまった面積の皆伐跡地があることから、各種の研究フィールドとして活用することとしており、各種のシカ被害対策に関する試験的な取り組みを行っています。









近年、広島県内においてもニホンジカが増加しており、スギ・ヒノキ苗木の食害や樹皮の損傷による材質の低下など林業被害が問題になり始めています。

民有林においても今後増加すると見込まれる皆伐・再造林を想定し、シカの防護柵の技術普及を図るため、標準的なステンレス線入り樹脂ネット、安価なアニマルネット、広島では初めてとなる林業用鋼製ネットを使用した防護柵を設置し、それぞれのコストやメンテナンス性といったメリット・デメリットを確認する計画です。

また、大苗植栽による造林コスト低減を目的として、一部の箇所において令和7年4月にヒノキ 220 本を試験的に植栽しましたが、残念ながら夏場に発生したシカ食害によってほぼ全滅となってしまったことから、今後は忌避剤についても試験を行う予定です。

これらのほかにも低密度植栽や下刈省略といった低コスト・省力造林の実施、広島森林管理署では初めてとなる早生樹コウヨウザンの植栽なども計画しており、現地検討会や研修の場として最大限に活用していきたいと考えています。



	ステンレス線入り (立木利用)		単木保護管
	ステンレス線入り (通常)		コウヨウザン
	アニマルネット		コナラ
	鋼製ネット		ヒノキ大苗



食害で枯死したヒノキ大苗



鋼製ネットの設置作業